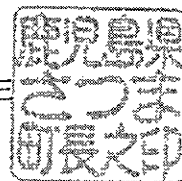




さ 建 第 214 号
平成20年10月22日

国土交通省道路局長 殿

さつま町長 井上 章三



今後の道路行政についての意見・提案について

平成20年9月19日付け国道企第37号により依頼のあった件について、別添のとおり提出
します。

〒 895-1803

薩摩郡さつま町宮之城屋地 1565 番地 2

TEL 0996-53-1111 (内線 2250)

FAX 0996-52-3514

さつま町役場 建設課

建設課長：脇黒丸 (ワキクロマル)

【改善すべき点】

①整備の優先順位の明確化、事業のスピードアップ化及び地域ニーズを考慮した整備が必要

優先度評価について、都市優先的な発想になっている気がするため、経済波及効果や長期スパンによる効果を検討してもらいたい。また、事業完了まで長期化することから、目標設定やスピーディな施策展開を図るためのルールづくりを検討し、さらに地域特性等を活かした事業推進が図られるよう検討して欲しい。

②「道路の維持管理の在り方」に対する行政の役割と住民の意識変革

道路の維持管理については、厳しい財政状況下、道路整備員により町内全域を伐採や路面補修、側溝布設等を行っているところであるが、住民からの要望も年々増加し、またその内容も多岐にわたっていることから、今後は地域住民の協力もお願いしながら「自分たちが使う道路はできる限り自分たちで管理する」という意識の醸成を支援しながら、地域住民と道路管理者との協働による道路管理を目指すべきである。

③改良工事による既存道路の徹底活用

現道を最大限活用し利便性を高め、また人口減少等により使われなくなった歩道を見直すなどの検討が必要である。このことにより、早期完成、コスト縮減が図られる。

【要望】

①道路局所管補助事業採択基準等において、「道路維持補修に対するパッケージ」を設けて欲しい。

補助事業において整備した路線、過疎対策事業等（起債事業）において整備した路線、農道から移管された路線等、その路線ごとに整備に至る背景・経緯等は様々であるが、町道の全体的な維持補修が必要な路線が増えてきており、これに要する財政上の影響も大きい。新設改良等への採択基準等は設けられているが、道路維持補修については全くの単独経費となっているため、補助事業として少しでも認めていただくような基準を設けられないか検討して欲しい。

②遅れている地方の道路整備と計画的修繕・更新を地方公共団体が主体的に行うための地方道路整備臨時交付金制度及び今年度創設された地方道路整備臨時貸付金制度について、維持もしくは同等以上の代替制度を確立して欲しい。

○現状

本町の道路網は、北薩地方の交通の要衝として市街地で交差する国道3路線を基軸に県道及び町道が補完しあいながら、地域経済の発展や観光の振興、住民生活の利便性に寄与しているが、まだ未整備区間も多く、特に市街地部の国道においては交差点改良がなされておらず、交通渋滞の原因となっている。

また、平成9年の地震及び平成18年の豪雨災害においては、幹線道路が一時マヒ状態になったことから、災害に強い道路ネットワークの整備が必要である。

町道の改良率・舗装率も低く地域間を結ぶ路線の改良・舗装の整備が必要であり、地域住民の日常生活への影響等検証しながら計画的に整備を進めていく必要がある。

橋梁については、老朽化の進んだものや狭隘なものもあるため、年次的に整備する必要がある。

維持管理については、道路整備員26人において、町内全域にわたる町道の補修・側溝布設・蓋盤設置をはじめ、危険箇所の伐採・簡易な舗装補修・オーバーレイ等を行い、町道の適切な維持管理と交通安全の確保並びに生活道路としての機能回復に努めてきている。

しかしながら、最近においては、厳しい財政状況による道路維持管理費の縮減や3町合併（旧宮之城町、旧鶴田町、旧薩摩町）に伴う組織の見直しとこれによる道路整備員の人員削減等の影響を受け、道路維持管理の状況は年々と厳しさを増す状況が続いている。

○課題

広域的な交流・ネットワーク化を推進するため国・県道等の整備促進や地域高規格道路の早期ルート決定と全線早期完成を望むところであるが、予算配分が少なく部分的な改良については補助事業もないことから整備が遅れている箇所が多く、住民からの要望に応えられていない状況である。

生活道路としての町道については、特に舗装に対する要望が多く、今後の維持・補修等にも大きな影響を及ぼすことが予想される。

橋梁については、長寿命化修繕計画に基づき今後修繕・架け替え等行うことになるが、それに要する費用がどの程度になるのか財政的な面が心配である。

道路の維持管理に対する住民からの要望は増え続けて、その内容も多岐にわたっており、要望に対して迅速かつ十分に応えられているとは言い難い。要望に対しては出来る限り応えていきたいということを基本にしながら、緊急性や優先順位等を考慮し対応してきている。

住民側においても、公民会単位で町道等の伐採作業を公民会の一つの行事として実施されているところもあり、今後、このような取り組みが広がることを期待しているが、「限界集落」という言語が表すようなところも事実として存在し、高齢化等による作業困難な箇所も増えてきている。

このようなことから、地方においては、道路整備の必要性や厳しい財政の実態に鑑み、道路整備や維持・補修等を着実に行うための制度の創設や、地方の裁量や自由度を拡大するような制度の確立を要望したい。

②—2 地域の目指すべき将来像

鹿児島県さつま町

本町は、平成17年3月に合併し町域が拡大したことから、地域間の連携強化・一体化がこれまで以上に求められており、社会・経済活動の活性化や産業の振興及び観光を支援するための道路ネットワーク化を推進するため国・県道等の整備を促進する必要がある。

また、少子・高齢化が進む中、より安全で安心な国土の実現のためには、高速道路を含む道路整備はより一層重要なものであり、特に山間地に位置する本町においては、日常生活を営む上でも必然的に車に依存しなければならないのが現状であり、暮らしの安全・安心の観点から生活幹線道路の整備を有利な事業により推進していきたい。

道路の維持管理については、協働管理体制等の導入により地域活動の輪を広げ良好な管理体制を構築する。この取り組みが行われることにより、道路の維持管理費の縮減とその有効な活用並びに要望に対する迅速な対応等につながっていくのではないかと考えている。

橋梁については、安全性や緊急性を考慮しながら計画的に整備する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例，期待する効果や評価等）

鹿児島県さつま町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
災害に強い道路ネットワークの形成	北薩地域の重要港川内港と熊本県人吉市とを結ぶ国道267号を基軸として，緊急輸送ネットワークの形成に資するため県，市町村，地元団体と連携して事業を推進する。	災害時でもネットワークとして機能が途切れない道路の確保ができ，医療・福祉施設のネットワークづくりの促進が図られるとともに，農業生産体制の強化と地域の特性，資源を活かした広域観光ネットワーク化も図られる。	事業の推進のためには，パッケージ，一括メニュー化での事業でなければ事業効果が期待できない。
道路維持管理に対する地域の発意と活動の向上	町道の歩道部分にある既設の植樹帯部分の管理を沿線の公民会内にある事業所等をお願いする。 区公民館，公民会内にある主要道路の伐採作業を地域の一行事として位置づけ，毎年実施してもらう。	当該部分の管理をお願いすることにより，年間を通した一体的な管理が可能となり，加えてその事業所等のPRにもつながる。ひいては公民会としての取り組みや公民会会員相互の連帯感や道路維持管理に対する意識改革にも寄与すると思われる。	植樹帯部分に花卉等を植えた場合における水道代金負担の問題や，伐採等により生じる草等の処理の問題をどうしていくかが課題として挙げられる。